

④6 安積中高一貫校整備事業

受賞機関 福島県

キーワード 歴史を未来へつなぐ校舎

全建賞審査委員会の評価ポイント

隣接する重要文化財である旧福島県尋常中学校本館の外壁と屋根の形態を新校舎に取り込み、モックアップ等の検証を経たコンクリート打放しの壁や傾斜した床スラブにより、多様な居場所を創出するとともに、TCC床の採用による工期短縮やコスト縮減等により、歴史との対話と技術的合理性を両立させた点が評価された。

1. はじめに

安積中高一貫校は、生徒の興味・関心や進路希望の多様化、対話を重視する双方向型の学習形態等、教育ニーズの変化に対応するため、進学に高い志を持つ生徒の進路希望の実現と全県的な中高一貫教育の展開を目的として、県内一の伝統校であり、難関大学への進学実績を有する県立安積高等学校に中学校を併設し、令和7年4月に開校した。

2. 事業の概要

本事業は、「国内外に通用するトップリーダーの育成」を実現するため、STEAM教育を柱に据えた主体的・対話的な教育を展開し、質の高い学力を育成する教育環境の整備を目的としたものである。併せて、中学生と高校生が世代を超えて交流し、共に学ぶことで、人間性を伸長させる教育の場を目指し、既存の高等学校敷地内に中学校校舎を新築した。

- ・地上3階建て
- ・鉄筋コンクリート造一部鉄骨造及び木造
- ・延べ面積4,478.45㎡

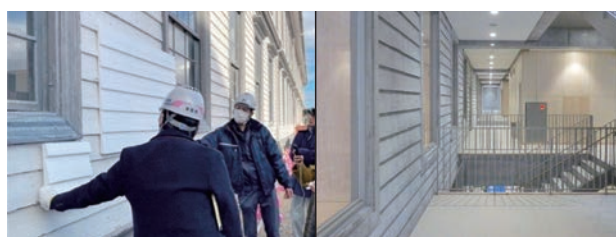


安積中高一貫校中学校校舎全景

3. 事業の成果

新校舎は、敷地内に立つ国指定重要文化財である安積歴史博物館（旧福島県尋常中学校本館）に隣接することから、かつての校舎の外形を新校舎の壁や床に転写することで、これまで受け継いできた歴史や伝統をこれからの未来へつなげるデザインとした。

1・2階の内部壁は、博物館外壁の下見板張りと同様の木製の窓枠をコンクリート打放しで表現するため、モックアップ等による多くの検証を踏まえ、土木構造物で用いられる発泡スチロール製の化粧型枠を採用した。博物館の外壁を新校舎の内壁に転写することで、新旧の校舎を結びつけ、学校全体で新たな価値を創出する空間づくりを目指した。



博物館外壁による型枠検証 コンクリート打放し壁面

博物館の屋根勾配を転写した3階の傾斜床スラブには、上部に勾配を生かした階段教室を、下部に小屋裏部屋のような少人数教室を設け、生徒が活発に議論するアクティブラーニングスペースとして機能している。傾斜床スラブには、軽量で高剛性なTCC（Timber-Concrete-Composite：CLTとコンクリートによる合成床版）を採用することにより、工期短縮やコスト縮減を図るとともに、遮音性能を兼ね備えた豊かな木質空間を実現した。



安積歴史博物館と新校舎 千葉学氏（設計者）による生徒へのレクチャー

4. おわりに

開校初年度の志願倍率は、県立中学校として過去最高となる5倍強を記録し、多くの児童や保護者から高い関心を集めた。

本校舎における教育活動を通して、中高一貫教育のスローガンである「未来を描き、未来を創る開拓者」を体現する福島から世界に向けた人材の育成が始まっている。

賛助会員 陰山建設(株)、(株)清水工業、高柳電設工業(株)、セコムエンジニアリング(株)